

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	18H05253	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	多次元X線タイコグラフィによる 次世代放射光顕微分光プラットフ ォームの構築	研究代表者 (所属・職)  (令和2年3月現在)	高橋 幸生  (東北大学・多元物質科学研究 所・教授)

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、研究代表者が培ってきた X 線タイコグラフィ法をさらに高度化し、多次元（三次元空間＋エネルギー＋時間）X 線タイコグラフィによる測定プラットフォームの構築を目指すものである。</p> <p>当初計画していたマルチ X 線ビーム形成等、X 線タイコグラフィ計測技術の高度化を着実に推進するとともに、位相回復計算法の高度化にも取り組み、触媒試料の観察における教師なし機械学習によるデータマイニングの有用性も示す等、数々の研究成果が得られるなど、順調な進展が認められる。</p> <p>研究成果は適切に論文発表されているが、プラットフォームとしての幅広い認知を目指し、引き続き様々な方法での成果発信を期待する。</p>		